

今日は最高の風やけなあ

佐賀関には元気がいっぱい

農業や漁業において、女性は直接生産を支える重要な担い手であり、女性を抜きにしてこうした産業は成り立ちません。今回は佐賀関で長年漁業に携わる女性に会いにきました。

黒々としたクロメを刻み、醤油と合わせてご飯の上にとろりとのせて食べると、味わい深い苦みと磯の香りがクチの中いっぱい広がります。

佐賀関のクロメ漁は1月から3月の間、解禁されます。この季節、漁協に入っている女性たちが2ヶ月限定で船に乗り、クロメを巻いています。

取材に伺った日は、全くの無風。雲一つ無く、晴れ上がった空の下、漁港の岸壁には多数の釣り人。港の出入り口にまで釣り糸を垂れている人がいる為、その釣り糸をかくくぐるようにしながら、次々と港へ船が帰ってきます。しかし、お話を伺うはずの小黒第一班の船はなかなか姿を見せてくれません。岸壁にいる皆さん曰く「今日はべた風じゃから、ようけ採りよるんじやろう」



渡辺ミツヨさん

の漁協では三人で一班となつて、クロメ漁に出るんだそうです。

クロメを巻いているところを見せて頂けるといので、ご挨拶もそこそこの、岸壁に接岸した船に乗り込ませて頂きました。クロメでいっぱい船の上は強い磯の香りに包まれています。

漁場にて、箱眼鏡で水中を覗きながら、海中に揺らめくクロメを鎌で刈り取るのだそうです。刈り取って時間が経つとヌルが出て巻きにくいので、漁場でも次々と巻いていくのだとか。刈り取るのはヒロさん。「箱眼鏡で海の中を見ると、普通の人は一発で酔うよ」。

刈り取られたクロメから固い部分や汚れている部分を取り除き、美味しいところだけを素早く巻いていくのがミツヨさんとユキ子さん。女の人は、クロメ漁の時だけ2ヶ月限定で船に乗るため、酔い止めが必要なこともあるのだとか。ゆらゆら揺れる船の上で、ずっと下を向きながらの手作業だけに、その苦労は並大抵ではなさそうです。

「船に酔うけれど行きたいからしょうがねえなあ」とミツヨさん。

巻く様子を見ると、驚くほど思い切っただけの分量を捨ててしま

午後二時半過ぎ、船影が港に入ってきました。操縦席に男性、そして船の後部で作業をしている女性二人が見えます。こちら



姫野ユキ子さん

ます。あまりの気前の良さに驚いてみると「固いところはやっぱり美味しくないわあ」とユキ子さん。

ヒロさん、ミツヨさん、ユキ子さん。皆さん、何を伺っても笑い声が絶えません。

この日は午前七時半の出航から数えて、七時間ほどの漁。揺れる船の上、ぬるぬると滑るクロメとの格闘。肘や腰に負担がかかるため、姿勢を工夫しながらの長時間作業。更には、急に海が時化る日は、とても恐ろしい思いもするのだとか。

天気には恵まれたお陰で、大漁だったこの日、クロメを巻く量も半端な数ではありません。

「今日は最高の風やけなあ」

誰からともなく聞こえてきたことば。笑顔で和気藹々と作業をし、男だから女だからと遠慮することなく、みんなが生きて暮らしている…。冷たい潮風の中、温かい人間味にふれ、心が芯からあたたまりました。